



# 湯河原ロータリークラブ WEEKLY REPORT



2021年4月16日(金)  
例会 第2830回

天気：晴れ  
合掌：奉仕の理想

ロータリーは機会の扉を開く

会長 山本明峰  
幹事 佐藤友彦

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
例会場：ゆがわら万葉荘 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 3-6  
TEL 0465(20)3900 FAX 0465(63)4033  
例会日：毎週金曜日 12:30～13:30

## 会長挨拶

先日の報道で神奈川県に「まん延防止等重点措置」が適用されると言う事で、またしても緊急に理事会を開催しなくてはならないだろうと数人の方にご相談したところ、どうも私の早合点だったようで、対象区域は横浜、川崎、相模原の3政令市のみらしく、当町は対象外と言う訳で何とか事なきを得たのですが、若年層も重篤化する変異種のウィルスが流行る兆しがあるのかなんとか、中々安心もしてられません。RI 会長からは全ての行事をオンラインで行うように勧告が出されていると言う事ですが、実際にはどの地区もその通りにはなっていないようです。世に流布する感染症対策の様々なアドバイスを参考にしながら、極力注意して例会なども開催しておりますが、最終的には個人個人での自己管理を徹底していただくことを何卒お願いいたします。

## 幹事報告

幹事報告 なし  
連絡事項 なし

出席報告	ゲスト 1名 ビジター 1名	会員 25名
	欠席 5名(免除者 1名)	前回の修正出席率 91.30%
	出席率 83.33%	前々回の修正出席率 79.17%

事前メイクアップ 0名

ゲスト 真鶴町長 松本一彦様

ビジター 根岸君代君 (平塚北ロータリークラブ)

## スマイルBOX

4/16～22

根岸君代君 (平塚北ロータリークラブ)

平塚北ロータリークラブから本日出席させていただきました根岸と申します。よろしくお願いたします。

青木義美君

熱海商工会議所で「17時からクーポン」という飲食店応援クーポンが発行されました。50%引きくらいの超お買い得クーポンです。これを使って当社すぐ近くにある「春陽亭(しゅんようてい)」でフランス料理を堪能してきました。料理が美味しいのもさることながら最後のデザートが20種類の中から食べ放題がすごいです。是非行って下さい。

佐東丈介君

先日、田貴湖にダイヤモンド富士を見に行きました。

小倉高代君

4月13日、自衛官募集相談員の委嘱式に参加させていただきました。さっそく4月30日に久保田所長と自衛官募集交流会を湯河原中央高等学校で行います。宜しくお願いします。

神谷一博君

本日は、次年度ポリオ・プラス委員会副委員長の根岸君代様湯河原ロータリークラブにお越しいただきましてありがとうございます。次年度よろしくお願致します。

## 卓話：真鶴町長 松本一彦様

### 真鶴町 町政報告会 真鶴町長 松本一彦様

本日は、湯河原ロータリークラブ様より、このような貴重な場をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。私は、真鶴生まれ真鶴育ちの55歳。大学卒業後、昭和63年に真鶴町役場に入庁しました。家族は、妻、32歳の息子、28歳と25歳の娘がおります。真鶴町役場には32年間勤務し、昨年6月に退職しました。そして9月、真鶴町民の皆様から信託を受けて町長を拝命し、公約に掲げた「町民が主役」を柱に、真鶴町の課題と可能性に向き合い、全力投球しているところでございます。

さて、新聞、テレビでは毎日、コロナ関係の話題ばかりで飽き飽きしていることと思います。幸いにも本町では7名、湯河原町さんでは41名と、都会に比べ何とか感染を抑えられている現状に対しまして、医療関係者の皆さま、各町民の皆さま、そして厳しい状況の中、感染症対策にご理解とご協力をいただいている事業者の皆さまに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。本町では、5月10日から65歳以上の方のワクチン接種を開始する準備を進めております。今後も町民の不安感を取り除くことを意識しながら、コロナ感染症対策に取り組んでまいります。

本年3月、令和3年度から令和10年度まで8年間の「第5次真鶴町総合計画」を策定しました。これは、「活かす」「育む」「支え合う」の3つの基本理念を掲げ、町の将来像を「幸せをつむぎ、ともに進むまち真鶴」とし、これからのまちづくりを進めていくための指針とするものです。また、本町は神奈川県で唯一の過疎地域ですが、今年の3月で関係する法律が失効し、新たに4月1日から「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行され、真鶴町は指定を受けました。今後、年度内に「過疎地域持続的発展計画」という町の過疎対策を進める計画を策定し、過疎地域からの自立を目指して、まちづくりを進めてまいります。私自身、職員時代の平成29年度に担当として「過疎地域自立促進計画」の策定に携わりましたが、過疎からの脱却にむけて、「自立した経済」をつくるため、今年度は、漁業と石材業、そして空家の利活用に注力していきたいと考えております。

漁業につきましては、平成27年度から地方創生事業として取り組み、本年1月に「鶴宝」と命名された岩ガキの養殖事業を行政としてしっかり継承し、本格出荷がしっかり稼働できるよう、昨年度に立ち上げた地域商社を支援してまいります。また、石材業につきましては、約四半世紀ぶりの開催となる「真鶴石祭り」についても支援を行い、町を支えていただけてきた基幹産業の再生と振興を図ってまいります。空き家や空き地の利活用も大事な公約であり、仮称ではありますが、「空家バンク」の稼働をしっかりと実行してまいります。真鶴町では現在420件ほど空き家や空き地を把握しております。空き家物件や空き地を提供したいオーナーさんと、空き家を利活用したい希望者をマッチングする仕組みをつくり、新しい経済をつくってまいりたいと考えております。

町の「課題」を町の活性化につながる「資源」に変えていく、そのような地域づくりを「空家問題」から突破してまいりたいと思います。

町長就任直後から、町民の皆様との意見交換や意見募集を重ね、町民にとって身近なテーマである「公園づくり」に着手しました。公園につきましては、長年真鶴で町民、特に子育て世代の皆様から要望されてきた課題の一つであり、この問題に取り組むことから、定住対策、「住みよい町」づくりの第一歩を踏み出しております。公園づくりの方針として、①ゼロベースで考える ②町民参加の基盤となる情報公開（オープンデータ）を進めていく、そして、③できることから着手する、試行する、という3本柱を立て進めていくことを既に本年2月広報等で発表しております。「提案より実行」をモットーに、町民と行政との協働による公園づくりに挑戦します。この他、高齢者の方々にも住みよい町となるよう地域公共交通の全体的な見直しや、子育て世代の支援に向けた中学校給食の実現、特定不妊治療等や子育て支援など、いつまでも真鶴町の住み続けたい、住み続けられる町となるよう定住対策に尽力するとともに、岩漁港を中心とした岩地区全体の振興や駅前対策等、ランドデザインにも掲げられた町の重要地区の再生や活性化にも着手してまいります。

最後に、私が行政運営を進めるうえで大切にしている事柄に触れさせていただきます。それは「役場の活性化」です。私は、真鶴町役場が活性化しなければ、真鶴町の活性化はないと思っています。そのような中で、私は就任以来、職員とたくさんコミュニケーションをとり、対話を重ねながら、これまで蓄積された多くの課題に対して、「町民目線で業務に取り組む」、「町民の声をよく聴いて業務に生かす」、そして「スピード感をもって業務に取り組む」ことを職員とともに意識して業務に取り組んでおります。特に若手職員の柔軟な発想力と行動力に期待を込めながら、できるだけ時間を作り職員と会話を繰り返しています。このように職員への大きな期待を込めて、組織を改編し、4月1日付で大規模な人事異動を実施しました。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

